

## 第4章 2018年ハバロフスク地方・沿海地方知事選挙について

堀内 賢志

### はじめに

ロシアでは、各連邦構成主体における首長の刷新が進んでいる。2017年には20の連邦構成主体で、2018年には15の連邦構成主体で、首長の辞任とプーチン大統領による首長「代行」の任命があった。この「代行」たちが9月の統一地方選挙で当選し、正式に首長となるという形で、その配置が進められている。これはおおよそ、2018年5月に始まる第2次プーチン政権第2期において各地で経済発展・国民生活向上を担う若手テクノクラートを配置していくという意図があるとみられている<sup>1</sup>。

ところが、2018年9月の統一地方選挙では、こうした方針が立ち行かなくなる可能性が生じることとなった。すなわち、同年6月に年金受給年齢引き上げを含む年金制度改革案が発表されたことが、プーチン政権に対する国民の強い反発をもたらし、これが統一地方選での与党「統一ロシア」の候補の苦戦につながったのである。中でも、沿海地方、ハバロフスク地方、ハカス共和国、ウラジーミル州での首長選挙では、現職の与党候補が過半数を獲得できず、第二回投票にもつれ込んだ。ハバロフスク地方、ウラジーミル州では、最終的に現職が敗北して自由民主党の候補が勝利し、ハカス共和国では現職が立候補を取り下げ共産党の候補が勝利することとなった。沿海地方では、第二回投票で現職が僅差で勝利する結果となったものの、大規模な選挙不正が指摘され選挙が不成立となり、12月に再選挙を行うという事態となった。

上記の連邦構成主体のうち、沿海地方、ハバロフスク地方は極東地域の経済・産業の要であり、プーチン政権が進める「東方シフト」と極東地域開発において中心的な位置を占める地域である。沿海地方のアンドレイ・タラセンコ前知事代行、ハバロフスク地方のヴァチェスラフ・シポルト前知事は、この極東地域開発の諸事業の実現に尽力し、連邦中央と良好な関係を築いていた。特に沿海地方は、「ウラジオストク自由港」や多くの先進開発区（以下「TOR」）といったいわゆる新型特区が重点的に配置され、「東方シフト」の拠点となっている。シンクタンク「ミンチェンコ・センター」が2017年12月に発表した「知事の政治的安定性レーティング」において、両知事は極東地域の首長たちの中では上位にランキングされていた<sup>2</sup>。そこにおける両知事の「安定性」の最大の要因は、「プーチンらエリート・グループ内での支持」であった（表1を参照）。

この両地方の知事選において現職が直面した困難の一つは、こうしたプーチン政権との近さによって、逆に年金制度改革案に端を発する政権への反発の影響をより直接的に受けたことだと考えられる。さらにそれは、プーチン政権の地方統治に対する打撃となっただけでなく、「東方シフト」の推進に対してもきわめて否定的な影響を与えうるものであった。それだけに、12月の沿海地方知事選の再選挙においては、連邦中央は強力な支援を行うことになる。本稿では、この二つの地方における知事選挙の経緯と結果をたどり、その背景を分析する。

表1：「知事の政治的安定性レーティング」（2017年12月、極東連邦管区のみ）

順位		加点要素						減点要素		
		プーチンらエリート・グループ内での支持(最大10)	大プロジェクトを管理する立場にある(最大5)	エリート・グループからの経済的関心の低さ(最大3)	残りの任期の長さ(最大3)	独自のポジショニングを有している(最大3)	政治的マネジメントの質(最大3)	連邦レベルでの対立の有無(最大3)	地域レベルでの対立の有無(最大3)	政権内での逮捕・刑事訴追(最大3)
1	タラセンコ知事代行(沿海地方)	5	4	1	3	2	2	0	0	-1
2	コズロフ知事(アムール州)	3	4	2	2	2	2	-1	-1	0
3	シポルト知事(ハバロフスク地方)	6	2	2	0	2	2	0	-1	-1
4	ボリソフ知事(サハ共和国)	4	3	2	1	2	1	0	-2	0
5	コジェミャコ知事(サハリン州)	4	5	1	2	3	1	-3	-1	-1
6	イリユーヒン知事(カムチャツカ地方)	2	1	3	2	1	2	0	-1	0
7	レヴィンタリ知事(ユダヤ自治州)	3	0	3	2	1	1	0	0	0
8	コピン知事(チュコト自治管区)	1	1	3	0	2	2	0	0	0
9	ベチヨスイ知事(マガダン州)	3	2	3	0	1	1	0	-1	0

出典：Рейтинг Политической устойчивости губернаторов Госсовет 2.0, Минченко Консалтинг  
[http://www.minchenko.ru/netcat\\_files/userfiles/2/Dokumenty/Gossovet\\_2.0\\_dekabr\\_20171.pdf](http://www.minchenko.ru/netcat_files/userfiles/2/Dokumenty/Gossovet_2.0_dekabr_20171.pdf)

## 1. 2018年9月ハバロフスク地方知事選挙

### (1) シポルト、フルガルの経歴

2018年9月のハバロフスク地方知事選挙に、与党統一ロシアの候補として出馬した現職のシポルト知事は、9年以上にわたり同地方知事を務めてきた64歳のベテランであった。シポルトはハバロフスク地方コムソモリスク・ナ・アムール市に生まれ、同市を支える軍需企業「コムソモリスク・ナ・アムール航空機生産合同」に技師として長年勤務した。1999年からは8年間にわたり連邦議会下院議員を務めている。2009年、ソ連末期から長くハバロフスク地方知事を務めたヴィクトル・イシャーエフが極東連邦管区大統領全権代表に転任した後を継いで、ハバロフスク地方知事に就任した。ハバロフスク地方行政府は、極東地域の連邦構成主体の中では安定した政策実施能力を有しており、シポルトもTORをはじめとする極東地域開発の諸事業を積極的に推進し、トルトネフ極東連邦管区大統領全権代表との関係も良好であった。

シポルトの対抗馬となった自由民主党のセルゲイ・フルガル下院議員は、1970年アムール州生まれの48歳であった。地元の病院で内科医・神経科医として勤務した後、企業での勤務を経て、2005年にハバロフスク地方議会議員となり、自由民主党会派に所属した。同党のハバロフスク地方支部コーディネーターとなり、2007年からは連邦議会下院議員に選出された。医師としての経歴もあり、下院では保健委員会を率いた。フルガルは前回2013年のハバロフスク地方知事選挙にも出馬しており、この時はシポルト知事(63.92%)に次

ぐ得票（19.14%）ではあったものの、大差をつけられて敗北している。ただし、ハバロフスク地方における自由民主党への支持は根強く、2000年代以降の下院選比例区では、2011年下院選を除き、共産党を上回る票を獲得して第二党となっている。

## (2) 第一回投票（9月9日）

知事選前の7月9日～14日、ハバロフスク地方で知事選に関する世論調査が行われた。「次の日曜に知事選があったら誰に投票するか」という問いに対し、「答えるのは困難」との回答が45%であったものの、シポルトへの投票は34%にのぼり、第二位のフルガル（15%）に対しダブルスコア以上の差をつけていた<sup>3</sup>。しかし、実際の9月の知事選の第一回投票では、フルガル、シポルトともに35%余りの得票で並び、僅差でフルガルが上回るという結果となった（表3）

表2：2014～2018年の経済社会指標（前年同期比）

年	地域	工業生産	固定資本投資	失業者数	消費者物価	名目賃金	実質賃金	人口 (1月1日付)
2014	ロシア全体	101.7	97.3	94.0	111.4	109.2	101.3	100.2
	極東連邦管区	105.3	94.8	97.9	110.7	108.7	101.4	99.6
	ハバロフスク地方	100.5	76.2	103.9	111.8	107.1	99.9	99.8
	沿海地方	105.0	107.0	96.2	112.0	108.7	101.3	99.6
2015	ロシア全体	96.6	91.6	107.4	112.9	104.8	90.7	101.8
	極東連邦管区	101.0	96.6	96.5	112.0	105.5	92.1	99.7
	ハバロフスク地方	100.4	74.9	88.8	113.1	104.6	89.8	99.9
	沿海地方	87.7	78.7	100.7	111.9	104.2	90.2	99.7
2016	ロシア全体	101.1	99.1	99.5	105.4	107.8	100.7	100.2
	極東連邦管区	101.0	97.1	92.9	105.4	106.8	99.7	99.7
	ハバロフスク地方	102.4	93.8	94.0	106.1	106.1	98.5	99.7
	沿海地方	95.9	82.8	85.6	104.9	106.8	100.3	99.8
2017	ロシア全体	101.0	104.4	93.5	102.5	107.3	103.5	100.2
	極東連邦管区	102.2	117.1	96.0	102.1	106.3	102.9	99.8
	ハバロフスク地方	120.0	95.3	97.4	102.6	107.0	103.4	99.9
	沿海地方	116.7	94.7	89.6	101.8	106.1	103.0	99.7
2018	ロシア全体	102.9	104.3	92.2	104.3	109.9	106.8	100.1
	極東連邦管区	104.4	102.6	94.3	103.8	110.6	107.7	99.7
	ハバロフスク地方	99.5	102.4	76.6	104.0	111.0	107.5	99.6
	沿海地方	97.9	101.7	99.3	104.2	110.7	107.7	99.5

出典：Социально-экономическое положение Дальневосточного федерального округа, Федеральная служба государственной статистики

表3：ハバロフスク地方知事選挙第一回投票（2018年9月9日）投票率36.09%

1	セルゲイ・フルガル（自由民主党）	連邦議会下院議員	126,693票（35.81%）
2	ヴァチェスラフ・シポルト（統一ロシア）	ハバロフスク地方知事	126,018票（35.62%）
3	アナスタシヤ・サラマハ（共産党）	自営業	55,695票（15.74%）
4	イーゴリ・グルホフ（公正ロシア）	出版物流通代理店「エクスプレス」代表取締役	19,426票（5.49%）
5	アンドレイ・ベトロフ（緑の党）	「アリファトルグ」支配人	13,487票（3.81%）
	無効票		12,429票（3.51%）

知事選を前にした8月、シポルトはハバロフスク地方住民に向けた包括的な演説を行っている<sup>4</sup>。ここでシポルトが真っ先に触れたのは、プーチン大統領が提示した経済社会発展の方向性に基づいてハバロフスク地方の戦略を構築するということであった。現在の経済・社会危機も、将来のためのコストであるとし、TORや自由港など新型特区のインフラへの投資が未来への投資になると訴えた。一方、年金制度改革に対しては、「必要性は理解するが多くの疑問もある」とし、特に女性の受給年齢の引き下げや改革の実施延期を提案するよう下院議員に対して命じたことや、生活困窮者などへの支援や医療その他の社会的サービスの必要性について触れたが、結局のところ、プーチン大統領が示した年金制度改革の修正案に対し「完全に立場を同じくする」と強調した。シポルトは、あくまでプーチンへの忠誠を示しながら、プーチンが進める極東地域開発の方向性に基づいて同地方の発展を考えていくという立場を示したのである。一方のフルガルは、年金受給年齢の引き上げによって、特に男性の多くが年金受給まで生き延びることができなくなる一方、その経済的効果は疑わしいとして強く批判し、現行の受給年齢の維持を訴えた<sup>5</sup>。

シポルトの知事在職は9年以上にわたり、住民は彼に大きな不満を持っていたわけではないものの、経済・社会の停滞もあり、リーダー刷新の機運は醸成されていた。また、TORをはじめとする極東地域開発事業は、ハバロフスク地方において必ずしも地元に見え恩恵をもたらしていない。表2に、ここ5年の経済社会指標（前年同期比）を示したが、極東地域開発の重点地域であるはずのハバロフスク地方や沿海地方は、ロシア全体、あるいは極東地域全体と比較しても、決して良い結果を見せてはいない。特に固定資本投資においてはむしろこの両地方の停滞は際立っている。人口動態を見ても、極東地域全体と同様、両地方の人口は減少し続けている。シポルトの地元コムソモリスク・ナ・アムール市は最初にTORが設置された地域の一つであり、また同市を対象とした社会経済発展長期計画が策定されるなど、シポルトは同市を極東地域開発政策における重点地域に位置づけることに成功した。それにもかかわらず、同市におけるシポルトの得票率（32.49%）は、ハバロフスク地方全体での得票率（35.62%）を下回った。識者は、シポルトが住民やメディアと率直な対話を行うことができず、年金制度改革に対しても曖昧な態度をとり住民の反発を買ったことがマイナス要因の一つになったと指摘している<sup>6</sup>。シポルトはあくまでプーチンに対して忠実であり続け、連邦レベルの政策の実現に注力する一方、そうした住民レベルの問題への配慮と説明は十分ではなかったのである。

### (3) 第二回投票（9月23日）

第一回投票ではシポルトとフルガルの得票率は僅差で並んでいた。しかし、2週間後に行われた第二回投票では、シポルトの得票は27.97%に留まる一方、フルガルの得票は69.57%に達し、大差でフルガルの圧勝となった（表4）。投票率は、第一回投票の36.09%から、第二回投票では47.49%へと上昇した。得票数を見ると、シポルトの票がほとんど増えていないのに対し、フルガルの票は2.5倍以上に増大している。

第一回投票の後、シポルトはフルガルに対し、自身の下で第一副知事に就任してもらおうという提案を持ちかけていた。この取り引きは成功すると見られていた。というのも、フルガルが下院議員として再選された2016年の下院選でも、シポルトとフルガルとの間で取り引きがあったと見られていたからである。この下院選でフルガルは、シポルトの地元コ

表4：ハバロフスク地方知事選挙第二回投票（2018年9月23日）投票率47.49%

1	セルゲイ・フルガル（自由民主党）	325,566 票（69.57%）
2	ヴァチャエスラフ・シポルト（統一ロシア）	130,873 票（27.97%）
	無効票	11,530 票（2.46%）

ムソモリスク・ナ・アムーレの選挙区から出馬したが、その際、同選挙区では「統一ロシア」の対抗馬の擁立が見送られていた。この2018年知事選におけるシポルトの提案に対しても、フルガルはこれを受け入れる姿勢を見せていた<sup>7</sup>。しかし、第二回投票の3日前に自由民主党党首のウラジーミル・ジリノフスキーはこの合意を撤回すると言明し、フルガルも選挙運動を継続する意思を示した。こうして、出来レースと見られていた選挙はにわかに活性化され、フルガルは、シポルトの長期政権に飽き、年金制度改革に反発していた住民の票を取り込むことに成功した<sup>8</sup>。ちなみに、ウラジーミル州知事選でも自由民主党のウラジーミル・シピャーギンが現職のスヴェトラナ・オルロワとともに第二回投票に残り、やはり同州議会副議長のポストを提示されていたが、ジリノフスキーはこの提案も同じく投票の3日前に拒絶し、最終的にシピャーギンが勝利することとなった<sup>9</sup>。

選挙キャンペーン中、両陣営は互いに選挙違反を非難し合った。自由民主党は、この知事選では暴力・恫喝・ネガティブキャンペーン・票の水増しといった違反が横行し、同党の監視員や職員が投票の行われている建物に入れないといった事態もあったと非難した<sup>10</sup>。中央選挙委員会のエラ・パンフィーロワ議長は、調査結果次第では選挙結果の取り消しもありうると警告したが、結局、大きな違反は無かったとして選挙結果を承認した<sup>11</sup>。

## 2. 2018年9月沿海地方知事選挙

### (1) タラセンコ、イシチェンコと第一回投票

2018年9月の沿海地方知事選挙に与党「統一ロシア」の候補として出馬したタラセンコは、その約1年前の2017年10月に同地方知事代行に任命された。ウラジオストク生まれではあるが、モスクワをはじめとする極東地域外で、ロスアトムやロシア農業銀行、連邦水利庁など、様々な国家機関、政府系企業でのキャリアを積んできた人物である。港湾を管理する国営企業「ロスモルポルト」の社長を2013年9月から務めていたことで、極東地域の主要港湾が集中する沿海地方の知事候補として白羽の矢が立ったとみられる。なお、タラセンコの知事代行任命には、運輸・建設企業グループ「スンマ」を率いていたジヤブジン・マゴメドフの支持があったと言われるが、マゴメドフはプーチン政権内の権力闘争の中、2018年3月に横領の疑いで逮捕されている。

このようにタラセンコは実質的に連邦中央から送り込まれた「ヴァリヤグ」として沿海地方知事代行の座に就き、連邦中央に忠実なテクノクラート知事としてプーチン政権の政策に基づいて活動していた。それだけに、プーチン政権によって発表された年金制度改革案における受給年齢引き上げに関しても、住民の支払い能力が向上していること、北部住民の優遇措置は維持されることなどを挙げ、「我々は我慢し、待つことができる」と住民に支持を訴えていた<sup>12</sup>。一方でタラセンコも、他の候補者たちとの公開討論に欠席するなど、住民へのアピールや対話の姿勢に欠けていたことが指摘されている<sup>13</sup>。

一方、タラセンコに対する有力な対抗馬となったのが、共産党推薦のアンドレイ・イシチェンコであった。イシチェンコは建設会社「アヴロラ・ストロイ」を率いるかたわら、2016年から沿海地方議会議員を務めていた。ウラジオストクで「功労建設者」の称号を授与された人物を大叔父に持ち、社会団体「戦争の子供たち」の議長として第二次世界大戦の世代の老人たちに恩典を与える法案を作成し、また悪徳建設会社の被害者や孤児の支援といった社会活動を行っていた人物である<sup>14</sup>。年金制度改革案に対して、共産党はウラジオストクで反対集会を繰り返し組織し、イシチェンコもそこで反対の声を上げた<sup>15</sup>。

ロシア政治文化研究センターが8月26日～28日に沿海地方で行った世論調査では、「明日知事選があったら誰に投票するか」という問いに対し、タラセンコが31%でトップ、イシチェンコと年金生活者党推薦のユリヤ・トルマチョワが15%で続き、態度を決めていない者が14%であった<sup>16</sup>。実際の9月9日の知事選では、タラセンコが46.56%、イシチェンコが24.63%と、ともに得票率を伸ばす形となったものの、タラセンコの票も過半数に届くことなく、決戦投票にもつれ込むこととなった(表5)。

表5：沿海地方知事選挙第一回投票（2018年9月9日）投票率30.24%

1	アンドレイ・タラセンコ（統一ロシア）	沿海地方知事代行	206,300票（46.56%）
2	アンドレイ・イシチェンコ（共産党）	沿海地方議会議員、建設会社社長	109,129票（24.63%）
3	ユリヤ・トルマチョワ（年金生活者党）	沿海地方議会議員、弁護士	47,832票（10.80%）
4	アンドレイ・アンドレイチェンコ（自由民主党）	連邦議会下院議員	41,066票（9.27%）
5	アレクセイ・コジツキー（公正ロシア）	沿海地方議会議員	21,416票（4.83%）
	無効票		17,306票（3.91%）

## (2) 第二回投票

第一回投票におけるタラセンコの票は、過半数には届かなかったとはいえ、2位のイシチェンコにはダブルスコアの差をつけていた。しかし、第二回投票では投票率が上がると同時にタラセンコへの反対票がイシチェンコに集約され、イシチェンコの票が大幅に上積みされることとなった(表6)。とりわけウラジオストク市とそれに近接するアルチョム市、ナホトカ市、ウスリースク市において、投票率が大幅に上がっている。

表6：沿海地方知事選挙第二回投票（2018年9月16日）投票率35.43%（不成立）

1	アンドレイ・タラセンコ（統一ロシア）	253,200票（49.55%）
2	アンドレイ・イシチェンコ（共産党）	245,550票（48.06%）
	無効票	12,198票（2.39%）

沿海地方、とりわけウラジオストクをはじめとする同地方の中心地は、以前から連邦中央に対する独立的・反抗的な機運が強く、連邦議会下院選挙での与党の得票率は一貫して全国平均を下回った。ウラジオストクはもともと漁業部門をはじめとする非集権的産業や日本の中古自動車輸入などのインフォーマル・セクターが地方経済の相当部分を占めており、連邦中央の統制が困難な構造があった。2009年に連邦中央が打ち出した中古車関税引き上げに対しては、ウラジオストクでこれに反対する大規模デモが繰り返し発生した。年

金制度改革への反発を背景としつつ、知事選が第二回投票にもつれこみ、連邦中央から送り込まれた「ヴァリヤグ」を自分たちの手で追い出すことのできる可能性が生まれたことで、住民の反連邦中央の機運に火がつけられることとなった。イシチェンコを沿海地方議会議員として選出した第一選挙区は、まさにウラジオストクの中心地にあるペルヴォマイスキー地区の選挙区であった。共産党やイシチェンコが有する弱者救済と地元愛のイメージは、こうした反連邦中央的な機運を動員する上で効果的であった。

他方で、沿海地方は連邦中央の進める「東方シフト」の中心地であるが、住民にとってその政策の恩恵は実感として乏しい。すでに見たように、この5年の沿海地方の経済・社会指標の数値は、ロシア全体はもとより極東地域内においても良いものではなく、特に固定資本投資のここ最近の落ち込みは激しい（表2）。極東地域では結局のところ民間投資の役割はいまだ小さく、固定資本投資の大部分は国家財政からの投資である。2012年のウラジオストク APEC の開催に向けて沿海地方には国家財政からの大規模投資が行われたが、それが無くなれば落ち込むこととなり、一方で、新型特区の制度が作られたものの、民間投資がそれに代わる役割を果たせていないということになる。ここでも、極東地域開発が住民における年金制度改革への反発を打ち消し、タラセンコのイメージを向上させる効果を持つことは難しかった<sup>17</sup>。他方、タラセンコの選対は元非常事態相のウラジーミル・プーチンによって率いられたが、そのタラセンコ選対スタッフが、ある面ではまだ通じたはずのプーチンの権威を効果的に利用することができず、「非プロフェッショナリズム」を露呈したことが指摘されている<sup>18</sup>。

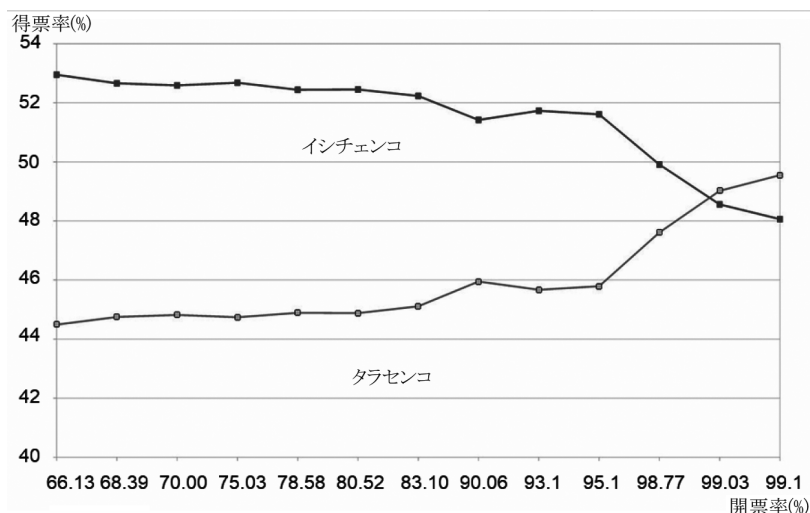
### (3) 第二回投票における選挙違反の指摘と選挙の不成立

表6にある第二回投票の結果を見れば、僅差でタラセンコが勝利したことになっている。しかし、これについては様々な大規模な選挙違反があったことが指摘されており、実質的にイシチェンコが勝利していた可能性が高い。

この第二回投票の開票における得票率の推移を見ると、開票率がおおよそ95%の時点までイシチェンコが一貫してリードしていたが、ここから急に両者の差が縮まっていき、開票率おおよそ99%の時点で逆転するという、きわめて不自然な推移がみられる（図1）。選挙監視を行った社会団体「ゴーロス」によれば、各投票所で作成された集計結果のプロトコルの写しと、その後選挙委員会で発表された集計結果とが大きく異なるケースが多数見つかった<sup>19</sup>。特にウスリースク市の21投票所では、イシチェンコの票が約1000票減っている一方、タラセンコの票は2万票以上増えており、アルチョム市の6投票所、ナホトカ市の7投票所でも相違が見られた（表7）。また、ゴーロスが指摘するように、ウスリースクではタラセンコの得票率が90%前後から100%にまで達する投票所が多くある一方、隣接する投票所では30%前後しかないという、きわめて不自然な投票結果も見られる。

さらに、投票所の結果の集計が行われていたウラジオストク市ソヴェツキー地区の地域選挙委員会において、共産党の選挙監視員たちが、委員会の職員による集計結果の改竄が行われていること指摘したが、その時、火事の通報があったとして消防隊と非常事態省の職員が委員会のビルに現れ、監視員たちに避難退去を求めた。共産党の監視員たちは退去を拒否したが立ち入りを拒まれ、ビルは施錠されてしまった。この様子は撮影され、Youtubeで配信された<sup>20</sup>。翌日、この消防隊の作業の中で紛失した文書があったとして、同

図1：沿海地方知事選挙第二回投票（9月16日）における  
イシチェンコとタラセンコの得票率の推移



出典：VL.RU <<https://www.news.vl.ru/vlad/2018/09/17/173764/>>

地区の13の投票所の投票結果が無効とされた<sup>21</sup>。

第二回投票におけるこうした諸々の疑惑を受け、中央選挙委員会のパンフィーロワ議長は、知事選の結果自体を無効とし、12月半ばまでに再選挙を実施するよう沿海地方選挙委員会に勧告した。同議長は、ウスリースク市やアルチョム市で投票率が最終盤で急激に増えたことなど不自然な点があったことを認めたものの、同議長が選挙無効を勧告した根拠としたのは、両候補の票が僅差だったため、上述したソヴェツキー地区の13の投票所の2万4500票の投票結果が無効となった以上、他の投票所での票を再集計したとしても投票結果を適切に反映させることはできないということだった<sup>22</sup>。この勧告を受け、9月20日、沿海地方選挙委員会は知事選の結果を無効とする決定を行った<sup>23</sup>。タラセンコはこの再選挙への不出馬を表明した。

### 3. コジェミャコの沿海知事代行就任と2018年12月沿海地方知事再選挙

#### (1) コジェミャコの沿海知事代行への就任

こうして9月の知事選の結果が無効とされ、12月に再選挙が実施されることが決定された後、9月26日にプーチン大統領は、サハリン州知事のオレーグ・コジェミャコを解任し、沿海地方知事代行に任命する決定を行った。28日、コジェミャコは沿海地方知事再選挙に無所属で出馬することを表明した。

コジェミャコは1962年、沿海地方南部のチェルニゴフカ村に生まれ、1989年に沿海地方で協同組合（後に食料品生産合同「プリモールスコエ」）を設立する形で事業を始めている。その後、沿海地方の主要産業である漁業に進出し、1995年に漁業会社「プレオブラジェンスカヤ・トロール船団基地」の取締役会副議長、1998年に議長となっている。2001年には沿海地方議会議員となり、翌年、同地方議会代表の上院議員となった。コジェミャコは、1990年代に沿海地方知事を務め同地方で強い影響力を持ったエヴゲーニー・ナズド



表7:「ゴーロス」が明らかにしたタラセンコ、イシチェンコの票の改竄

ウスリースク市				
投票所	イシチェンコ		タラセンコ	
	改竄前	改竄後	改竄前	改竄後
No. 2801	161	59	668	1900
No. 2805	71	44	173	453
No. 2812	17	91	794	1619
No. 2818	239	456	579	1879
No. 2819	361	361	515	1815
No. 2820	220	96	159	980
No. 2826	210	210	677	1677
No. 2828	91	91	271	1283
No. 2829	565	274	677	1861
No. 2834	190	113	81	958
No. 2838	233	233	500	1900
No. 2844	201	35	324	909
No. 2845	76	76	256	1356
No. 2846	219	219	247	1347
No. 2847	290	290	431	1831
No. 2850	208	53	170	1000
No. 2854	190	90	536	1900
No. 2858	124	124	134	634
No. 2862	194	194	233	1233
No. 2863	281	68	218	1392
No. 2867	81	55	464	1100
計	4222	3232	8107	29027

アルチョム市				
投票所	イシチェンコ		タラセンコ	
	改竄前	改竄後	改竄前	改竄後
No. 303	373	373	353	853
No. 304	284	284	733	1433
No. 318	199	199	358	758
No. 328	332	332	357	757
No. 347	269	269	328	828
No. 354	210	210	689	1189
計	1667	1667	2818	5818

ナホトカ市				
投票所	イシチェンコ		タラセンコ	
	改竄前	改竄後	改竄前	改竄後
No. 1904	484	484	811	1811
No. 1915	68	34	76	180
No. 1923	238	238	482	1482
No. 1926	229	152	152	229
No. 1944	200	200	142	942
No. 1966	266	266	205	1205
No. 1968	380	380	205	1305
計	1865	1754	2073	7154

出典: “Переписанные протоколы Приморья (Обновляется),” Движение «Голос» <<https://www.golosinfo.org/ru/articles/142886>>

ラチェンコと強い結びつきがあったとされ、上院議員就任の際は当時のセルゲイ・ダリキン知事の反対にあったものの、ナズドラチェンコ派の議員の支持により実現したとされる<sup>24</sup>。2004年にはセルゲイ・ミロノフ上院議長の顧問となり、翌2005年には極東地域に戻りコリヤーク自治管区副知事・知事を務めた。北方への物資輸送と燃料確保に尽力し、また同自治管区とカムチャッカ州との合併を実現するなどの手腕を発揮した。2007年からはモスクワで大統領府長官顧問などを務め、翌2008年には再び極東地域に戻りアムール州知事を6年半務めた。アムール州は頻繁に知事が交代する不安定な地方であったが、コジェミャコ知事は自身の支持基盤を形成し、安定した統治を実現した。2015年には汚職事件で解任されたアレクサンドル・ホロシャービン知事の後任としてサハリン州知事に転任していた。

このように沿海地方で政治・経済的なキャリアを積んだコジェミャコは、漁業部門を含む同地方の状況を熟知する人物であり、また沿海地方住民に対して「地元出身者」としての自己をアピールすることができた。一方で、コジェミャコは連邦中央とのコネクションを有すると同時に、極東地域各地で知事として危機の収拾にあたりながら行政経験を積んだ実績もあり、プーチンにもその手腕が高く評価されていた。沿海地方の混乱を収拾し、連邦中央の政策方針の下で同地を治めていくという意味では、適任と言える人事であった。

## (2) 沿海地方知事再選挙に向けた選挙キャンペーン

コジェミャコは選挙キャンペーンにおいて年金改革等の問題に触れることなく、ポピュリスト的政策を連発し、さらに連邦中央がきわめて異例と言える体制でコジェミャコを強力にバックアップした。コジェミャコの選対を監督したのは大統領国家評議会活動支援局のアレクサンドル・ハリチェフ局長であり、プーチン政権の下で活動しているほとんどすべての政治コンサルティング会社がコジェミャコの選挙キャンペーンに協力したという<sup>25</sup>。

11月にはドミートリー・メドベージェフ首相がウラジオストクを訪れてコジェミャコと会談を行った。医療設備の購入、アヴァンガルド・スタジアムの改修などに連邦財政から6億6千万ルーブルを拠出すると同時に、同地方の諸問題の解決のために予備基金から8億5千万ルーブルの補助金を拠出することを約束し、また極東地域とロシア他地域を結ぶ航空料金への補助プログラムの拡大などを約束した<sup>26</sup>。さらにこの時コジェミャコはメドベージェフに対し、2017年から国内乗用車に搭載が義務付けられている緊急通報システム「エラ・グロナス」を輸入車について免除するよう要請した。先に触れたように、ウラジオストクは1990年代から日本からの中古自動車輸入が盛んな地域である。このコジェミャコの要請を受け、極東地域住民を対象に中古車へのエラ・グロナス搭載義務は1年間免除されることとなった<sup>27</sup>。この他、開発対外経済銀行のイーゴリ・シュワロフ総裁、「ロスネフチ」のイーゴリ・セーチン会長、連邦保健省のヴェロニカ・スクヴォルツォワ大臣、連邦スポーツ省のパーヴェル・コロプコフ大臣など、有力な政府系企業のトップや連邦政府の閣僚が続々と沿海地方入りし、様々な支援を約束した。

とりわけ注目されたのは、極東連邦管区の首都の地位をハバロフスクからウラジオストクに移転するという決定であった。ハバロフスクとウラジオストクは極東地域における二大都市であるが、行政上の中心地はソ連時代からハバロフスクにあった。ただし、2012年のAPEC開催や2015年からの東方経済フォーラムの開催、「ウラジオストク自由港」やTORの設置など、近年の極東地域開発における中心地は事実上ウラジオストクとなってお

り、ハバロフスクからウラジオストクへ極東連邦管区の首都を公式に移転する案は以前から俎上に上っていた。とはいえこの決定は、コジェミャコからの提案を受け、再選挙3日前の12月13日の大統領令で決定されるという、コジェミャコ再選を効果的に後押しする形で演出された<sup>28</sup>。

コジェミャコ自身も、タラセンコとは対照的に、沿海地方各地の地方自治体をくまなく回り、各地のエリートや有権者との関係構築に尽力した。とりわけ9月の知事選でタラセンコの得票率が低かったスパスク・ダーリニー市やスパスク地区には、重点的に訪問すると同時に地方財政を投じ、また同市で強い影響力を有する元ウラジオストク市長のイーゴリ・プシカリョフらとの協力関係を築いた<sup>29</sup>。さらに、沿海地方の地方自治体の首長を議会による選出から公選制へと戻すことや、街の整備、給料・健康保険の引き上げなどを約束すると同時に、連邦中央を批判し、「地元利益の擁護者」としての自己を演出するなど、地元を訴えるキャンペーンを繰り返した。

### (3) イシチェンコの出馬断念

もう一つこの再選挙において重要であったのは、9月の知事選でタラセンコと競り合った共産党のイシチェンコが、12月の再選挙に出馬できなかったことである。

共産党は、10月27日の沿海地方党大会でイシチェンコの推薦を決定する予定だったが、従来から同党が地方党大会を開催してきた郵便労働者クラブの所有者である「ロシア郵便」の地方局長が、直前になって会場の貸し出しを拒否してきたという。同党は地方党大会を11月3日に延期し、党沿海地方委員会で開催することを決定したが、イシチェンコの推薦に必要な自治体議員の署名集めのための期間が短縮されることとなった<sup>30</sup>。結局11月3日の地方党大会では、この自治体議員の署名集めが不可能であるとして、12月の再選挙には党の候補を出さないことが決定されてしまう<sup>31</sup>。

党による推薦の可能性を失ったイシチェンコは、無所属での出馬を目指し、規定に従って住民および自治体議員の署名を集めた。しかし、140名の自治体議員の署名が必要となるころ、沿海地方選挙委員会はイシチェンコの集めた147名の署名のうち13を無効と判断し、イシチェンコの候補者登録を拒否した<sup>32</sup>。

ロシア政治文化研究センターは、10月18～20日に沿海地方住民を対象に「明日知事選があったらだれに投票するか」との世論調査を行っており、そこではイシチェンコとする回答が30%、コジェミャコが22%となっていた<sup>33</sup>。この後、連邦中央からの様々な支援などコジェミャコを後押しする諸要因があったとはいえ、イシチェンコが出馬していればやはり再選挙でもコジェミャコの有効な対抗馬となったとみられている。ちなみに、コジェミャコは選挙キャンペーンの中で、1945年以前に生まれた住民に住宅・公共料金半額など優遇措置を与える「戦争の子供たち」法案を地方議会に提出しているが、上述したように、これは元々はイシチェンコが進めていた法案であった<sup>34</sup>。

### (4) 選挙結果

コジェミャコの地方行政における実績と「地元の人物」としてのイメージ、地元エリートや住民と向き合う姿勢とポピュリスト的政策、そうしたイメージを強力に演出し、財政その他の大盤振る舞いを行った連邦中央の支援の成果もあり、再選挙においてコジェミャ

コは第一回投票で6割を超える得票率で当選した(表8)。9月の選挙における様々な選挙違反の疑いが住民の疑念を高めたにもかかわらず、投票率はアップしている。この結果を見れば、風向きを変えることには成功したことになる。

表8：沿海地方知事選再選挙(2018年12月16日)投票率46.35%

1	オレーグ・コジェミャコ(無所属)	沿海地方知事代行	420,730票(61.88%)
2	アンドレイ・アンドレイチェンコ(自由民主党)	連邦議会下院議員	171,061票(25.16%)
3	アレクセイ・チムチェンコ(成長党)	会計・税務コンサルティング「チーム・グループ」総裁	35,126票(5.17%)
4	ローザ・チェメリス(ロシアの女性)	ウラジオストク市議会議員	25,854票(3.80%)
	無効票		27,095票(3.99%)

連邦中央がここまで強力な支援を行った背景には、「東方シフト」においてウラジオストクがアジア太平洋への玄関口と位置付けられ、極東地域開発の中心となっているという沿海地方の戦略的重要性があり、一方で同地方が連邦中央の統制のききにくい構造を有していることもあり、連邦中央の息のかかった人物を知事としておく必要性があった。同時に、年金制度改革による政権批判の高まりが、各地方選挙での苦戦、そして沿海地方では深刻な選挙違反と、負のイメージが拡大する流れとなっている中で、この流れを転換してこれ以後の選挙への悪影響を食い止めなければならなかった。

他方、この再選挙の投票結果についても、大規模な操作があった可能性が指摘されている。また、コジェミャコ以外の各候補の選挙キャンペーンも連邦中央に近い選挙コンサルタントが行っていたといわれる。さらに、イシチェンコが選挙から排除された不透明な経緯もさることながら、連邦中央がこれに関して共産党、そしてイシチェンコとも内々に話をつけていたという見方もある<sup>35</sup>。結局のところ、9月の選挙の選挙不正も不明確なまま幕引きされており、今回の沿海地方知事選挙には様々な疑惑が残されることとなった。

## おわりに

9月のハバロフスク地方、沿海地方知事選において、両現職は、あくまでプーチンへの忠誠を示し、年金制度改革案に基本的に賛成する姿勢を示すと同時に、プーチン政権が進める東方シフト、極東地域開発政策の方向性に従って地元の発展を考えていくという姿勢を強調し、一方で地元住民との対話姿勢には欠けていた。これは、年金制度改革とプーチンへの反発の高まり、極東地域開発が地元生活にもたらしている恩恵の乏しさを考慮すれば、選挙キャンペーンのやり方としては失敗であった。これについては、両地方において、連邦中央から送られた選対スタッフが地元におけるプーチンへの反発や現職の不人気などを軽視していたという責任が指摘されているが、そもそもこれまでにないプーチン政権への逆風という状況の中では、現職与党候補の選挙戦略の構築自体が困難であったともいえる。両地方の対抗馬の候補は、いずれも社会政策に重点を置いた実績を有する人物であり、年金制度改革案には明確に反対の声を上げた。

さらに両地方ともに顕著だったのは、第二回投票では第一回投票よりも投票率が上がっており、対抗馬が大幅に票を積み上げたことである。これは、対抗馬自身の魅力というよりも、現職を追い出して政権への反発を示す可能性が住民の元に生まれたことが、彼らの

票の積み上げにつながったことを意味すると考えられる。とりわけ、ハバロフスク（およびウラジーミル州）におけるジリノフスキーの戦術は鮮やかであった。

コジェミヤコの選挙キャンペーンは、こうした9月知事選の反省点を踏まえたものとなった。遠隔地の自治体を含め、地元エリートおよび住民に積極的に向き合い、ポピュリスト的政策を連発する一方、無所属として出馬し、連邦中央を批判して、地元の代表者、地元利益の擁護者であることをアピールした。連邦中央は、沿海地方の戦略的重要性と扱いにくさ、今後の選挙や政権運営への悪影響を考慮し、異例の態勢でバックアップした。今後連邦中央が他地方で同様の支援を行うことは困難と言われている。

フルガル知事就任後のハバロフスク地方では、混乱が続いている。新知事はシポルト時代の幹部の大部分を残したものの、部局や幹部ポストの統廃合、権限移管などを様々な形で行い、これに反発した地方政府幹部が次々と辞任した<sup>36</sup>。ハバロフスク地方議会は、ハバロフスク地方憲章を改正して、地方政府幹部の任命を議会の同意人事とすることを目論み、これにフルガル知事が反発するという形で、議会と知事の対立が続いている<sup>37</sup>。一方、地方政府幹部にはイシャーエフ元知事に近い人々が就任しており、フルガルの勝利の裏には同地方での影響力回復を目論むイシャーエフの存在があったともみられている<sup>38</sup>。

沿海地方知事選の再選挙はコジェミヤコの圧勝に終わったとはいえ、選挙違反や選挙の操作をめぐる様々な疑惑が不透明なまま幕引きされており、コジェミヤコと連邦中央の支援の約束が失望に変われば、住民の不信と反発が再び高まる恐れもある。9月末にコジェミヤコが沿海地方知事代行に就任した直後、ウラジオストク市のヴェルケエンコ市長が、市の繁栄を求めて闘うモチベーションを失ったと表明し辞任した。ヴェルケエンコは2017年12月にウラジオストク市長に就任したばかりであり、10か月程度で辞任したことになる<sup>39</sup>。コジェミヤコは選挙キャンペーン中には地方自治体首長の公選制復活を約束していたが、その関連法案の審議は遅れ、ヴェルケエンコの後任のウラジオストク市長は結局従来通り議会が選出することになった。共産党のアナトーリー・ドルガチョフ沿海地方議会議員は、ウラジオストク市長を公選で選んだ場合、住民の反政権的機運が再び高まり、コジェミヤコに都合の良い候補を勝たせることが困難になる可能性があるため、法案の審議を意図的に遅らせ、より結果を操作しやすい議会での選出にしたのだと指摘している<sup>40</sup>。沿海地方の情勢は依然として波乱含みであるといえよう。

## — 注 —

- 1 堀内賢志「大統領選挙を前にした沿海地方・ウラジオストクにおけるリーダーシップの転換」『ポスト・プーチンのロシアの展望 中間報告書』日本国際問題研究所、2018年3月
- 2 *Рейтинг Политической устойчивости губернаторов Госсовет 2.0*, Минченко Консалтинг, 21 декабря 2017 г. <[http://www.minchenko.ru/netcat\\_files/userfiles/2/Dokumenty/Gossovet\\_2.0\\_dekabr\\_20171.pdf](http://www.minchenko.ru/netcat_files/userfiles/2/Dokumenty/Gossovet_2.0_dekabr_20171.pdf)>
- 3 *Ежедневные Новости Владивостока*, 20 июля 2018 г. <<https://novostivl.ru/post/66348/>>
- 4 “Обращение Губернатора В.И. Шпорта 'Хабаровский край - образ будущего'”, Официальный сайт Хабаровского края и Правительства Хабаровского края <<https://www.khabkrai.ru/events/important/171061>>
- 5 *AmurMedia*, 17 июля 2018 г. <<https://amurmedia.ru/news/712199/>>
- 6 *Губерния онлайн*, 24 сентября 2018 г. <<http://www.gubernia.com/news/politics/khabarovskiy-politolog-vyacheslav-shport-tak-i-ne-smog-vystroit-dialog-s-lyudmi/>>

- 7 *Коммерсантъ*, 18 сентября 2018 г. <<https://www.kommersant.ru/doc/3744715>>
- 8 *РБК*, 23 сентября 2018 г. <<https://www.rbc.ru/politics/23/09/2018/5ba79f5b9a794754285256c7>>
- 9 *РБК*, 20 сентября 2018 г. <<https://www.rbc.ru/rbcfreenews/5ba362019a7947fc8a356b25>>
- 10 *Интерфакс*, 23 сентября 2018 г. <<https://www.interfax.ru/russia/630291>>
- 11 *Тасс*, 23 сентября 2018 г. <<https://tass.ru/politika/5595173>> ; *Тасс*, 23 сентября 2018 г. <<https://tass.ru/politika/5595397>>
- 12 *Восток-Медиа*, 15 июля 2018. <<https://vostokmedia.com/news/politics/15-07-2018/my-mozhem-podozhdat-andrey-tarasenko-podderzhal-pensionnyu-reformu>>
- 13 *PrimaMedia*, 13 августа 2018 г. <<https://primamedia.ru/news/722290/>>
- 14 *VL.ru*, 23 июня 2018 г. <<https://www.newsvl.ru/vlad/2018/06/23/171317/>>
- 15 “28 июля во Владивостоке прошел митинг против повышения пенсионного возраста,” Приморское краевое отделение КПРФ, 28 июля 2018 г. <<http://www.pkokprf.ru/news/view/31555>>; “Во Владивостоке состоялся массовый митинг протеста,” Коммунистическая Партия Российской Федерации, 2 сентября 2018 г. <<https://kprf.ru/actions/kprf/178554.html>>
- 16 “Приморский край перед выборами губернатора. По материалам мониторингового опроса,” Центр исследований политической культуры России, 3 сентября 2018 г. <<http://cipkr.ru/2018/09/03/primorskij-kraj-perehd-vyborami-gubernatora-po-materialam-monitoringovogo-oprosa/>>
- 17 Наталья Зубаревич, “Политэкономия проигрыша в Приморье. Откажется ли центр от варягов-технократов,” Московский Центр Карнеги, 26 сентября 2018 г. <<https://carnegie.ru/commentary/77340>>
- 18 *Regnum*, 18 сентября 2018 г. <<https://regnum.ru/news/2483794.html>>
- 19 “Переписанные протоколы Приморья (Обновляется),” Движение «Голос» <<https://www.golosinfo.org/ru/articles/142886>>
- 20 *VL.ru*, 17 сентября 2018 г. <<https://www.newsvl.ru/vlad/2018/09/17/173764/>>
- 21 *VL.ru*, 18 сентября 2018 г. <<https://www.newsvl.ru/vlad/2018/09/18/173806/>>
- 22 *Тасс*, 19 сентября 2018 г. <<https://tass.ru/politika/5581578>>
- 23 *Интерфакс*, 20 сентября 2018 г. <<https://www.interfax.ru/russia/629931>>
- 24 *Коммерсантъ*, 30 сентября 2004 г. <<https://www.kommersant.ru/doc/510814>>
- 25 Андрей Перцов, “Приморский волнорез. Во что обойдется Кремлю победа Кожемяко в Приморье,” Московский Центр Карнеги, 17 декабря 2018 г. <<https://carnegie.ru/commentary/77978>>
- 26 *PrimaMedia*, 16 ноября 2018 г. <<https://primamedia.ru/news/760288/>>
- 27 *Российская Газета*, 21 ноября 2018 г. <<https://rg.ru/2018/11/21/reg-dfo/kozehmiako-dobilsia-dlia-primorcev-otmeny-obiazatelnoj-ustanovki-era-glonass.html>>
- 28 Указ Президента РФ от 13.12.2018 N 716 “О внесении изменения в перечень федеральных округов, утвержденный Указом Президента Российской Федерации от 13 мая 2000 г. N 849” <<http://kremlin.ru/acts/news/59396>>
- 29 *Коммерсантъ*, 18 декабря 2018 г. <<https://www.kommersant.ru/doc/3834119>>
- 30 *Коммерсантъ*, 26 октября 2018 г. <<https://www.kommersant.ru/doc/3780823>>
- 31 *Коммерсантъ*, 3 октября 2018 г. <<https://www.kommersant.ru/doc/3791621>>
- 32 *Интерфакс*, 20 ноября 2018 г. <<https://www.interfax.ru/russia/638644>>
- 33 “Приморский край: Массовые настроения после старта повторных выборов губернатора. Очередной опрос ЦИПКР от 18-20 октября 2018 года,” Центр исследований политической культуры России, 23 октября 2018 г. <<http://cipkr.ru/2018/10/23/12741/>>
- 34 *VL.ru*, 16 октября 2018 г. <<https://www.newsvl.ru/vlad/2018/10/16/174644/>>
- 35 Андрей Перцов, “Приморский волнорез. Во что обойдется Кремлю победа Кожемяко в Приморье,” Московский Центр Карнеги, 17 декабря 2018 г. <<https://carnegie.ru/commentary/77978>>
- 36 *Regnum*, 9 октября 2018 г. <<https://regnum.ru/news/2496930.html>>; *AmurMedia*, 12 января 2019 г. <<https://amurmedia.ru/news/778732/?from=29>>
- 37 *AmurMedia*, 15 января 2019 г. <<https://amurmedia.ru/news/777879/>>
- 38 *Амурпресс*, 27 февраля 2019 г. <<http://amurpress.ru/politics/14359/>>
- 39 *Коммерсантъ*, 2 октября 2018 г. <<https://www.kommersant.ru/doc/3758771>>
- 40 *Коммерсантъ*, 12 февраля 2019 г. <<https://www.kommersant.ru/doc/3881304>>